

わかしお便り

Vol. 46

Wakashio Dayori
2021.6.21

CONTENTS 原料小麦情報……シカゴ市況、麦価・粉価動向など
市場トレンド情報……‘ちばふん’目線で最近の食品市場をご案内
当社製品情報……イチオシ製品のご紹介
雑感

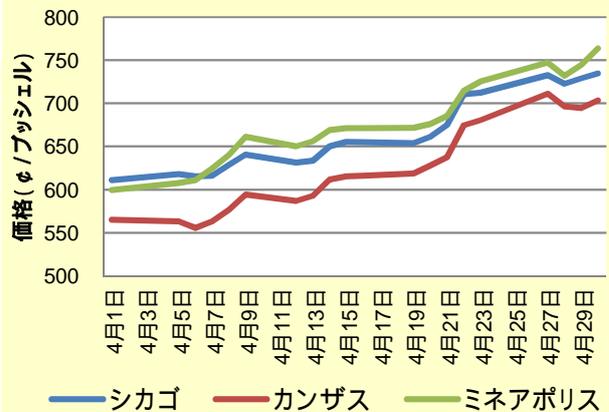


5月上旬までは他作物につれ高も降雨予測を受け下落。下旬以降は春小麦産地乾燥懸念。

5/1~31のシカゴ穀物相場(7月限)は、¢648~762/ブッシェル(bu)のレンジで推移しました。4月下旬以降の米国産地における異常低温や乾燥懸念、コーン、大豆の上昇につれる形で5月に入っても相場は上昇し、5/7には¢762の高値を付けました。その後は天候改善や他穀物の下げに連動して値を下げ、月末には¢664/buで取引を終えています。6月に入ってから再び乾燥懸念により価格は上昇し、¢680台を推移しています。

米国冬小麦の作柄は概ね良好で、一部州では過去最高の単収を記録する見込みとなっており、カンザス小麦相場は先月からシカゴ相場と比べて下落幅が大きくなっています。一方で春小麦産地は乾燥した気候が続き、生育懸念が生じている影響からミネアポリス相場は月末から大きく上昇しています。グラフチャートも他の2つの市場から大きく乖離しており、6/4には¢813の高値を付けるほどの値上がりとなっています。

7月限 小麦先物市場価格(4/1-30)



また、日本向けの冬小麦の産地であるワシントン・オレゴン・アイダホ州でも乾燥が激しく、ソフトホワイト小麦の価格も大きく上昇しています。期末在庫は比較的潤沢なため、現在のところ供給に対しての懸念は大きくありませんが、すでに価格に影響が出始めているようです。

海上運賃も大幅な値上がりが続いていますが、新造船の発注量が足踏みしており、需給バランスが大きく崩れたままとなっていることから、こちらも値が下がりまではしばらく時間がかかりそうです。

市場トレンド

情報



フードロス問題について

今回は、身近なスマートフォンアプリで、今話題のサステナブルな社会貢献を目指した最新アプリについて、フォーカスしてみたいと思います。



昨今、様々なフードロスアプリが急増しておりますが、注目を集める人気の理由として、世界中で注目が高まるSDGsへの意識高まりから「つくる責任 つかう責任」に組み込まれたフードロス削減により、作り手と生活者を直接繋ぐことでフードロス削減を目指すアプリやサービスが続々と誕生しているようです。

FOODLOSS



そもそも、フードロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品より「食品ロス」とも言われております。日本のフードロスは、年間約612万トンにもなります。(平成29年度推計:農林水産省及び環境省)これは世界中で飢餓に苦しむ人たちへの食糧援助量、年間約390万t(平成30年度)の約1.6倍もの量です。2019年10月1日には、消費者庁から「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行されました。また、昨今は持続可能な社会を実現するSDGs(エスディーゼズ)の観点からも企業の取り組みが推奨されるなど、フードロスをいかに減らしていくかは早急の課題とされています。身近なところからフードロスを減らしていくためには、自治体との連携が欠かせませんがこれに一役買っているのが、フードロスアプリです。

代表的なアプリとして、株式会社コークッキングのフードロス解決アプリ「TABETE」を使った取り組みが挙げられます。アプリを使って、飲食店や販売店で廃棄の危機にある食品を掲載してユーザー(食べ手)に知らせ、それを見たユーザーは通常よりも安く購入できるという仕組みです。自治体から住民や店舗に対して積極的に利用を働きかけていくことで、実際に多くのフードロス削減へと繋がっています。

また、フードロス認知向上だけでなく、ビジネスとしても継続性のあるサービスを実現させます。飲食店がフードロスアプリを使う最大のメリットは、初期費用や手間をかけずに廃棄コストと食品や食材のロスが減らせることです。さらには、売上アップにもつながります。各店舗が、独自に買い手(食べ手)を見つけるは困難ですが、アプリを使えば欲しいユーザーと簡単にマッチング可能。多くのアプリサービスは、飲食店の初期費用や運営費も無料の上、リスクなく始めることができる

市場トレンド

情報



というのも活用しやすい理由となっている様です。さらに、フードロス削減活動へ取り組んでいることが世間や生活者に伝わり、お店のブランディングにも繋がります。

<話題のフードロスアプリ>

日本初のフードロス削減サービス「TABETE」

最後の1食まで食べ手につなげるをコンセプトにした日本初のフードロス削減サービス。多くの自治体とも連携。さらに「TABETEレスキュー掲示板」で、生産者と食べ手をつなげる食材の全国直送サービスも行う。初期費用やランニングコストは一切不要。売れ残ってしまいそうな食品をTABETEに出品し、あとはユーザーが購入するのみ。決済もアプリ上で完結。

月額制のフードロス削減サービス「Reduce Go」

「Reduce GO(リデュースゴー)」は、飲食・小売店向け余剰食品削減サービスのプラットフォーム。加盟店の利用料や初期費用は0円で、Reduce GOから売上げた収益の一部を還元。ユーザーである生活者は、月額1,980円で1日に2回まで、アプリで所在地周辺の余剰食品を探して注文。注文した食品は、指定の時間に店舗に取りに行くというしくみ。現在は、関東エリアと名古屋エリアに対応。

今後のフードロスアプリ活用の動きについて、先行して取り組んでいる欧米では、アプリを使ったプラットフォーム型のフードシェアリングサービスが既に広く普及している中、日本ではまだ始まったばかりです。店舗とユーザーの両方が、導入経費やリスクなく手軽に取り組めるという点で、今後は確実に広まっていくと思われます。広く活用されれば、実際に食品廃棄量の削減に貢献出来る便利なツールとなります。フードロス削減活動は、今後企業はもちろんのこと、一人ひとりが真剣に向き合って取り組んでいかなければならない重要テーマと考えます。そのためには先ず、意識を持ち行動に踏み出してもらうことが重要です。その入り口として、お得感を感じながら利用しやすいフードロスアプリは、今後も注目される重要なツールとなり、関わる業界全体で取り組むべき手段の一つとなるかと思われます。

【F】



当社製品情報

パン用粉：花象ゆめかおり

ゆめかおりは関東で収穫される小麦で、主に茨城県、栃木県、群馬県で生産されていますが、千葉製粉の「花象ゆめかおり」は茨城県坂東地域で栽培された小麦粉を100%使用しています。生産者の方々の品質へのこだわりが強く、ゆめかおりの特性を活かすための土づくりや高いタンパク質含有量が特徴です。

国内で消費されているパンの多くは、カナダやアメリカ産の硬質小麦を製粉した小麦粉を使用して製造されています。これは、グルテンを含むタンパク質量が多く、パンを作るための弾力性や粘性に優れているからです。一方国内では、北海道産「ゆめちから」や「春よ恋」などがパン用粉として良く知られています。

「花象ゆめかおり」はこれらの小麦粉と同等にタンパク質含有量が多く、パンをつくるための高い弾力と粘性を持ち合わせており、おいしいパンをつくるための素質を持った小麦粉です。食パンにご使用いただければソフトで香り高く、ハード系にご使用いただければもちり歯ごたえのあるパンになります。特におすすめなのはハードトーストです。シンプルな配合だからこそ、花象ゆめかおりとイーストが生み出す風味を濃厚に感じることができます。

是非、こだわりが込められた茨城県産小麦「花象ゆめかおり」を食べてみてください。



先月のわかしお便りで関東の梅雨入りももうすぐかななどと書きましたが、その予想は大きく外れたようです。前回のわかしお便り発刊以降、千葉で雨が降ったのはわずか2日。6月14日になり、ようやく関東も梅雨入りとなりましたが、14日以降千葉ではいまだ雨らしい雨は降っていません。気の早い話ですが、関東の梅雨明けは例年では7月19日頃だそうです。湿度の苦手な筆者としては、次のわかしお便りを発刊するころには梅雨が明けてほしいと思わずにはいられません。

今年こそは

皆さんは最近何か新しく始めたことはあるでしょうか。私は毎年、春頃になると初々しい新入生や新社会人の姿を見かけるようになり、その姿に触発されて何か新しいことをしたくなります。ですが大抵はその場限りになってしまうことが多く、長続きしないことがほとんどでした。

そんな中、例にもれず(懲りず?)今年も新たなチャレンジはどんなことをしようかと考えていたある日、自宅で子供たちと借りてきたレンタルDVDを見てみると、子供たちが(ベイマックス)という映画に登場する白いメタボ体形のロボットを指さしながら「パパだ!」と叫びました。

騒ぐ子供たち・・・

動揺を隠し切れない私・・・

気にせずスマホをいじっている妻・・・

今年のチャレンジがダイエットに決定した瞬間でした。

とはいえ、これまでもダイエットに挑戦してこなかったわけではありません。世間では新型コロナによる自粛から運動不足になり、「コロナ太り」という言葉も聞きますが、コロナが始まる前から太っている私にはどうしても「また挫折するのではないか」という考えが頭を離れませんでした。

ジムやプールは自粛で行けないし、健康食品は高いし効果があるのかもわからない、運動器具を買うのもお金がかかるし・・・しかしそんなことを言っていては何も始まりません。まずは基本的なところから、食事制限と自宅でもできるような運動を続けてみました。ただしこれまで行ってきた取り組みと違って、無理な内容では行わないように注意して徐々に生活を見直すようにしていきました。

その甲斐もあってか、始めてからひと月後には見事に体重を4キロほど減らすことに成功!ただ不思議なことに誰も「〇〇さん、最近痩せたね!」などと言ってくれません。なぜでしょうか。(え?もともとが重いからそれくらいじゃ足りない?)

始める前はネガティブな考えが多かったものの、思っていたよりも普通の生活にうまく溶け込ませることができたので、そこまでの苦労もなく今のところ順調に取り組んでいます。やはりうだうだと考えているよりも、まずは行動あるのみと改めて実感しました。

この調子で今年こそは挫折することなく、カッコいいパパを目指して頑張っていきたいと思います。そしてモチベーション維持のために、私を見かけたら是非「痩せたね!」と気軽に声をかけてください。

[i]